



「あいこのときは『エスティユー』って言う」「えっ、何それ。初めて聞いた」。チーム分けじゃんけんのかけ声の違いで盛り上がる東京学館新潟高の生徒＝新潟市中央区

## 周囲に合わせるケースも

## かけ声違う人とする時は？

多種多様なかけ声があるチーム分けじゃんけん。かけ声が違う人とする場合はどうする？新潟市中央区の東京学館新潟高や、同区の新潟小で聞いてみた。

同高1年の男子生徒(15)は大阪府から新潟市中央区に引っ越した小学6年のとき「かけ声違う問題」に直面した。『グッパでわかれましょ』だったけど、新潟は『ゲーロッパ』。多数派に合わせた方が早いので『ゲーロ』でやった」と振り返る。

新潟小6年の坂上ひとみさん(11)は「塾で他校の人たち

が『グットッパでわかれましょ』と言っていたから、合わせた」と教えてくれた。

小学校教諭として赴任先の言葉を中心に研究してきた、「県ことばの会」理事の土井清史さん(73)が本県の方言研究者、外山正恭さんの見解を教えてくれた。「外山先生が高校でじゃんけんの調査をした際、かけ声が変わった場合、発言力のある子どものかけ声に従う傾向があると言っていた」と指摘。「今で言うインフルエンサー的な子どもの影響を受ける側面もあるかもしれない」と分析した。



県内のチーム分けじゃんけんのかけ声について語る新潟国際情報大の佐々木香織さん＝新潟市中央区

## 子ども、仲間内…標準化されず

お次は、新潟市内を席巻する「ゲーロッパ」について。方言研究者、外山正恭さんが行ったじゃんけんのかけ声に関する調査

している。一般的に子ども時代、仲間内では使わない。大人が使う場面は少ないので、共通のかけ声が作られにくいのでは」と分析している。

チーム分けじゃんけんの歴史や多様性を専門家はどうみているのか。10年前に県内で大規模調査をした新潟国際情報大の佐々木香織さん(56)と、「県ことばの会」理事の土井清史さんに聞いた。

まず「グットッパ」の歴史について。佐々木さんは「関東圏に多い。かけ声は地域ごとにさまざまだが、ゲーとパーを使うのが典型的なスタイルだと思」と指摘する。柳田国男の周

圍論は「周辺部に古い物が残っている」という仮説だ。郡部にゲーとパーを使う地域が多いことから「グットッパ」「グーツパ」などがチーム分けじゃんけんの原形ではないかと推測す

る。土井さんは「チーム分けじゃんけんは普通のじゃんけんほどメジャーではなく、テレビで取り上げられる機会も少ない。かけ声が標準化されにくい」と推測。「チーム分けじゃんけんは一般的に子ども時代、仲間内では使わない。大人が使う場面は少ないので、共通のかけ声が作られにくいのでは」と分析している。

## 有識者の見方



土井清史さん

### 取材メモ

チーム分けじゃんけんのアンケートは、自由記述欄も面白かった。「独自すぎるかけ声が恥ずかしくて、声を出せなかった」とか、「友達と同じ班になるためにするをして、先生から怒られた」などの声寄せられた。紹介し切れなかったのが、心残りだ。